

時の流れとともに

宗教において、根本教義はいくら時間が過ぎ去ろうとも変わらないし、変えてはならないものである。しかし、教祖に教えられていない規律、規範は時代とともに変化して来たようだ。カソリックの世界でも、メディアの発達していなかった時代には、教会がイエスの教えた根本教義に基づいて、さまざまな規範や規律が人々の生活を導き、また人々はそれに従っていた。しかし、ルネッサンス以降、人間中心の世界となり、自然科学も急速に発展した。そのなかでカソリックは新しい思想と対立し、戦いも交えてきた。カソリックの絶対性、唯一性を重視するために、カソリックは進むべき方向をなかなか正しく掴めなかった。反宗教改革運動として、イエズス会が誕生し、教えの新天地をアジアへ、日本へと求めて行った。その当時、日本ではキリスト教は大変な勢いで伝播し、わずかの間に信者数は、一説によると 200 万人を数えたという。

53 年前の 1965 年、ヨハネス 23 世によって開かれたヴァチカン第二公会議は、パオロ 6 世によって閉ざされた。ヴァチカン第二公会議は、それまでのカソリックの絶対性という立場を捨て、平和を求める各宗教と対等であるという革新を打ち出し、互いに理解し、それを深め、協力し合うことを提示した。

近年に入り、メディアはさらに進展し、今日の出来事は即座に世界のあちこちに広まるようになった。さらに人間中心の考え方が強まり、人間に都合の良い解釈がなされ、立法化もされている。

20 世紀後半、第 2 次世界大戦以降という表現が正しいかどうか分からないが、キリスト教の思想から離れた「法」があちこちの国々で成立しはじめた。「離婚法」「堕胎法」(妊娠中絶法)は多くの国々で早く制定されたが、カソリックの国イタリアでもそれらの法律は採決された。さらには、オランダ、スイス、ベルギーなどでは「安楽死」が法令化された。

カソリックの長い歴史の中で「レズ」「ゲイ」「両性愛」「トランスジェンダー」(LGBT) が議論されてきた。教会において、LGBT の人間は、長い間ハンセン病患者と同じように取り扱われていた。しかし、この 4 つの現象は、聖職者の中にあっては、隠蔽されていたようだ。しかし最近になって神父でも、自分はゲイであると公表する例が増加している。神は愛を教えている。愛があればすべてを包み隠し、赦すのであるという。神はゲイの人を聖者にできないのだろうか。

イタリア・ヴェローナ近くの山中の町、カッシニアの住人の間で、一つの携帯電話からニュースが広がった。その教会の主任司祭を勤めていたジュリアーノ師 (48 歳) が同僚のパオロ師と結婚したのだ。二人の関係はすでに 10 年近くになるが、今年 4 月に正式に結婚した。

ジュリアーノ師は次のように述べている。「我々は長い間この日を待っていた。我々はもう 10 年も愛し合っているのだ」。ジュリアーノ師はまた、「私は特別な経験をした。パオロはそんな私を助けてくれた。私をより良き人間にしてくれた。私の人生を変えた天使なんだ」とも述べている。相手のパオロ師は次のように語る。「彼は魂に非常な喜びを抱いている。愛すべき人であり、注意深い人であり、いつも私を守ってくれる。私

の愛する人よ、お前は一つのリンゴの半分なのだ」。ジュリアーノ師は司祭職を捨て、教区民として信仰を続けていくという。

新たに 14 人のカーディナル誕生

法王フランチェスコは 5 月 20 日、新たに 14 人のカーディナルを任命すると発表した。その中に一人の日本人が含まれていた。日本では早くから噂に上っていたようだ。大阪の大司教前田万葉氏 (69 歳) である。さる 6 月 29 日「聖ペテロ・聖パオロ」の日に正式に辞令が出された。日本人のカーディナルとしては、2007 年に浜尾枢機卿が亡くなってから 11 年ぶりとなる。その後、いつ新しい日本人のカーディナルが誕生するかと、日本人信者たちは待ち望んでいた。カーディナルとしては若い方に属する。前田氏は、長崎県五島列島の真中の島、久賀島の出身、平戸の祭司も務めた。先祖の中には、隠れキリシタンとして生きた人もいる。逆に、キリシタンを迫害した一派もいるという。

今回新しく任命されたカーディナルのうち 11 人が 80 歳未満である。次回の法王を選出する選挙コンクラーベがあれば、投票権を持つカーディナルは 115 名となる。その内訳はヨーロッパ 53 名、北アメリカ 17 名、南アメリカ 13 名、中央アメリカ 5 名、アジア 17 名、アフリカ 16 名、オセアニア 4 名である。計 125 名だが、今年中に満 80 歳を迎え、投票権を失う人が 10 名いる。

仏大統領法王に謁見

フランスのマクロン大統領は 6 月 26 日ローマを訪れ、ヴァチカンの法王フランチェスコに謁見した。法王と大統領は握手する前に抱擁し合い、頬に 2 回接吻した。会見は 57 分続いた。2014 年のオバマ米大統領の時より 5 分長かった。会見の主な内容は、今大きな問題となっている「難民とヨーロッパの役割」であった。法王は、これは難しい課題だが、ポピュリズムでは解決にならないと宣言。また中期的にはアフリカに投資をし、仕事を与え、教育を授けることが重要であると繰り返した。これに対し、大統領は法王に同意し、難民問題を解決するためには、アフリカの政治的発展も大きな政策の一つだと提言した。

大統領は午後、聖ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ教会を訪れ、そこで「司教座聖堂参事会員」の称号を授与されている。この制度はフランス王エンリコ 4 世 (1553 ~ 1610) によって制定された。それはフランス南部クレラック (Clairac) のサン・ピエトロ大修道院がローマの聖ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ教会に寄贈されたことに始まる。歴代の仏大統領はこの称号を受けたが、ポンピドゥー、ミッテラン、オランダ大統領は拒否している。

大統領は法王との謁見の前に、フランス大使館となっているファルネーゼ宮殿で、聖エジディオ共同体の創始者であるアンドレア・リッカルド氏と現会長のマルコ・インバリアツォ氏等の代表団を迎え、45 分間会談を行った。この聖エジディオ共同体はアフリカの政治の安定と医療活動に専念しているからだ。アフリカはヨーロッパ人が支えなければならないという。アフリカからヨーロッパへの難民の流出の原因は、アフリカの貧困にあるからで、アフリカへの援助は、経済的のみならず、文化的、教育的、哲学的、宗教的でなければならないと考えられる。法王と大統領の会談では、ヨーロッパと教会の役割についても話されたようだ。法王はアルゼンチン出身だが、ヨーロッパのリーダーでもある。